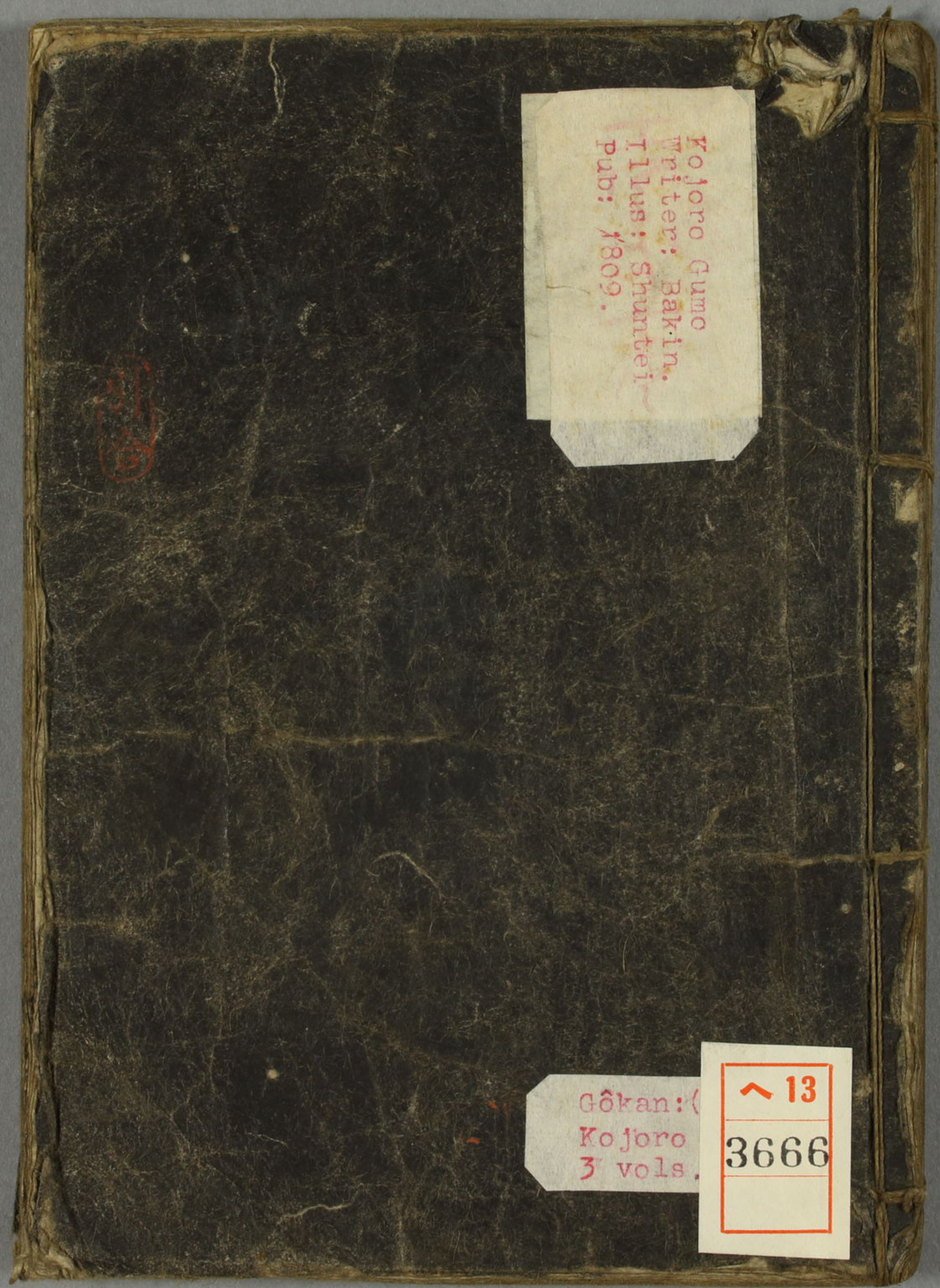

Kojoro Gumo
Writer: Bakin.
Illus: Shuntei
Pub: 1809.
Gôkan:(
Kojoro
3 vols.
へ 13
3666

門 へ13
號 3666
巻

小女郎蜘蛛の巻

馬琴著
春亭画

十二冊 仙鶴堂梓

上古莽賊を喫ひ、大蜘蛛と云ふ。紀に云景行天皇の三十一年。豊前國に土蜘蛛起る勅して兵を率ひ亦聖武天皇の天平四年。蜘蛛あり人を害と勅して兵を殺と長二丈余あり。しかるに昔則兇賊山林に穴居し網羅を張て人を刼をものなるべし。ある説に野史附會あり。頼光土蜘蛛を砍の奇談世に伝る事久し。覧者賞らば遂に故事とぞ。今予が著る小女郎蜘蛛の物語も亦その類とぞ。

曲亭馬琴誌

文化戊辰三月上旬脱稿
六年己巳正月發販

日結一尺細知吐幾尺綠百実
爲爾食九腹尚苦飢

梅聖俞蜘蛛詩

さくもの
くもとるもの
めれる宿の
玉ぞ
飯岡法師
和歌

旧井注連之助貞勝

右金吾季綱
箕田源二秀綱
光俊朝臣
足柄山姥
八重山

むかし後宇多院の弘安年中北條貞時孫倉の執權たりし頃なり。
橘津の國川邊郡より麦田の藏人教秋といふ武士あり。先祖麦田滿中より
の知を領して教光の土蜘蛛を切りしより宝剣さへ今は相伝せり。年紀齢四十ま
あまりにて嫡子教若七才なるより内室いちろう世をさりゆひしゑ待宵といふ
妾を寵愛せられ懐妊せ。されども八月よりうぶ。普代のりのとみそ。旧井
主馬之進貞重ト部壽右夫季宗
とそ貞光季武の子孫家老職を兼り。
主君を補佐せしが。その家うく流りぬ。
ある夜教秋ある夢を視たりと
蜘蛛切の宝剣あづからぬ出て白
髪なる老人と変じ抜かんと紀け紀
夢教秋夢ひ世のとをまいりて
剣の徳ゆうをくなりと思ひ箱より剣を

ありしゆえ思ひ此家実あり。けり
とえしくしまれるふるまひ。その褥を
踏んとなりしが外三尺ばかり野也。
捨ての人ばかりにて悪ものとめ。
一且ずつ除ものを待ちのこのこ
ざあり教秋愛さめ寿吳の思ひを
ト級ある大丈夫家を捨てあり。
えんどんせんとしが其夫也又眉をひそめ
ものとすこ。もたがどいと不思議
寵愛とるの妾まう人之をを母ざ
車ぬ古ろう下借腹の子ゆく家之
あの傾と同じ。あ大巻に某ゞ女房懐胎
あとのどのさ産ゆ夫わ。
あり。此家実あり。けり
とえしくしまれるふるまひ。その褥を
踏んとなりしが外三尺ばかり野也。
捨ての人ばかりにて悪ものとめ。
一且ずつ除ものを待ちのこのこ
ざあり教秋愛さめ寿吳の思ひを
ト級ある大丈夫家を捨てあり。
えんどんせんとしが其夫也又眉をひそめ
ものとすこ。もたがどいと不思議
寵愛とるの妾まう人之をを母ざ
車ぬ古ろう下借腹の子ゆく家之
あの傾と同じ。あ大巻に某ゞ女房懐胎
あとのどのさ産ゆ夫わ。

○馬琴自作のよし本

金
米

蘭陵書

春亭画
馬琴作
上鶴屋喜右衛門版

小女郎蜘中編

巻之五

馬琴著

注
金

さび辛がこびうち
ひきこをちろりのけうの木こうを
ひびくれんとちらいさまふくその

主
金
源

金
源

氷のゆうとせん
馬さえ思えのめんぐらく
神田ろべい
かりゃあり

くもづか

小
さ

つるの日
小
車

小女くらべ中へん
源
己
八
丸
紀
金

馬琴作
春亭画
中編終
鶴喜版

小女郎蜘下編

蛇
宝
宝

九
こし

金
金ハテをろえぬ

三田の原うち
六そうのつかめと

洪

源

実治元
夢幻信士
二月十
天福
覚醒信士
八月
九

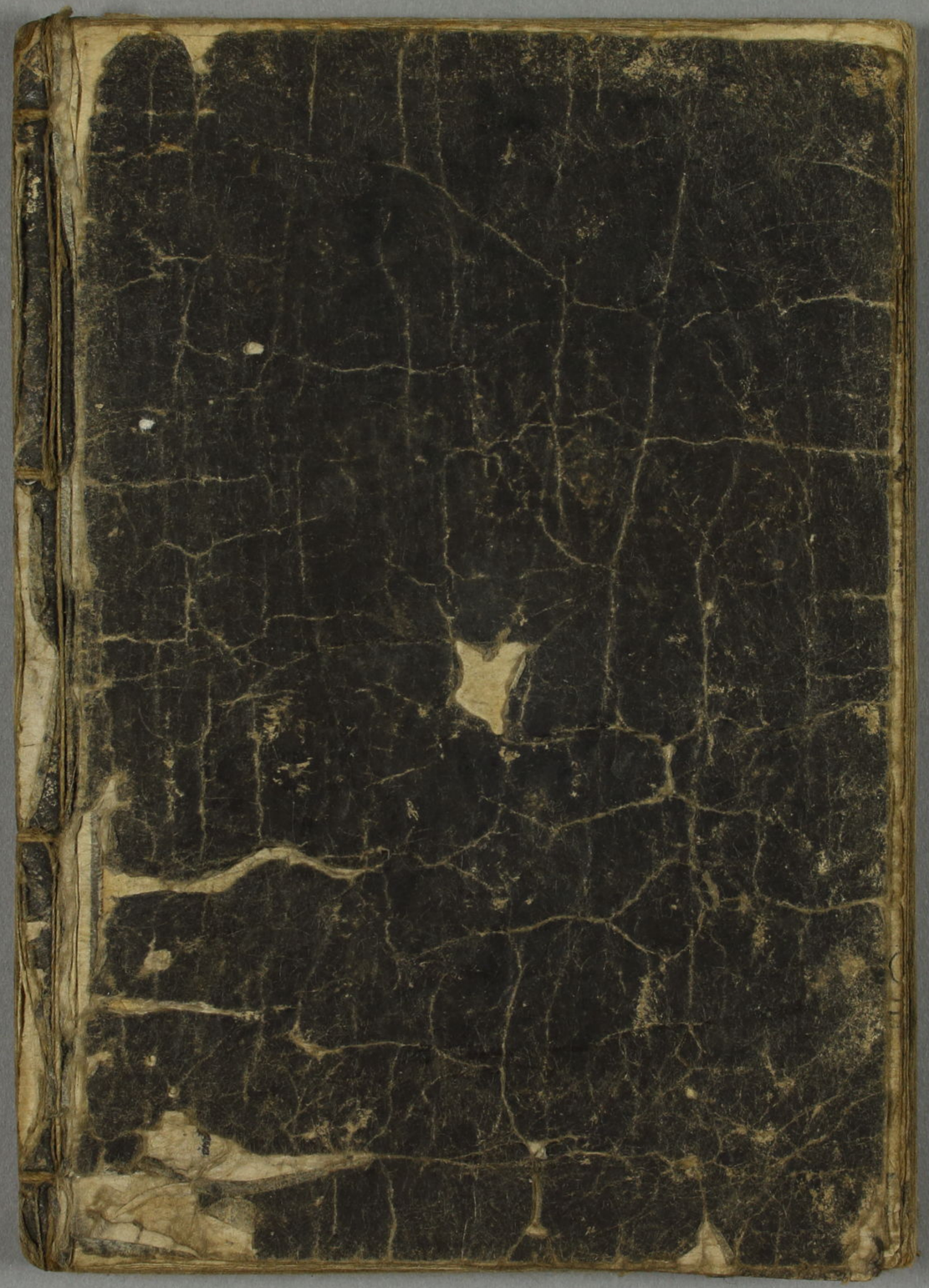
さるがやつれの
えんせうおどの
るんめいぶつく
七

九
注

九
金
源

九
金
法

馬琴

壽喜久

下編大尾　鶴壽版